

社会福祉法人 真光会 各保育園の昨年度自己評価、およびそれにもなう今年度の園目標（抜粋）

園評価の方法について

各園、令和7年度の各園の目標設定のために、①子どもの発達援助5項目、②健康管理食事6項目、③保育環境2項目、④保育内容11項目、⑤子育て支援5項目、⑥多様な子育てニーズ対応1項目、⑦地域の子育て支援2項目、⑧地域の住民や関係機関等の連携7項目、⑨実習・ボランティア2項目、⑩運営方針5項目について、全職員で3段階評価を実施。

そこで、下記のように、令和6年度の評価および令和7年度当園としての努力していきたい項目を抽出して、各園の職員室に個人目標とともに掲示し、目標達成率向上に向けての行動基準を作成した。

	高木保育園	今町保育園	天竜保育園	梅北保育園
令和6年度園目標についての評価	今年度も『園児の思いに寄り添った保育をめざして』をテーマに情緒の安定を図り安心できる環境の中で、自主性・自発性・意欲を育むために自主的に遊び込むわくわくの日を重点的に取り組んだ。 園児の遊んでいる姿を見守りながら、遊びに必要なことを用意していくことで、遊びが広がりじっくりと遊び込む姿が見られた。また、何をして遊びたいか、作りたい物に必要な物は何かなどじっくりと考えてから遊び込む姿に変化していった。 園児に対して禁止や制止する言葉掛けをしないですむ環境作り(物的・人的)を心掛けていきたい。 遊びが単調になってしまうこともあったので、園児がいろいろなことに気付くことができるような働きかけや関わり方などが今後の保育教諭等の課題であると感じた。	今年度も園児の主体性・保育者の主体性(共体)の保育をテーマに取り組み、異年齢交流【あそんでみ隊】では、前年度よりも園児・保育者ともにクラスの枠を超えた関わりが深まり、積極的で一貫性のある保育の展開が実践できた。また、自分のクラス以外の友達とも積極的に誘い合って遊んだり、生活をともに過ごしたりすることが日常となってきた。 しかし、保育者間で捉えた時、固執した考え方により同じ場で過ごしているだけという場面もあり、もう一歩お互いが歩み寄る必要性があることを考えさせられた。 再度、私達保育者にとって何が大切で何が必要なのかを確認し、風通しのよい職場環境となるよう一人一人の意識を高めていきたいと思う。	昨年度に続き、気にかけている園児の問題もあり、園長先生のご助言のもと、園全体での協力体制としたが、職員の意識の違いやクラスによつての温度差が生じたことが反省点である。園児や保護者との関わりについては、今後も課題としたい。 今年度も、お互いを思いやる、カバーし合うなど職員間の人間関係がさらに良好になった。 「10の姿」と「まことの保育」の主題との関連性を分かりやすくするため図示したことにより、保育の振り返りや確認の機会となった。 行事は園児・保護者ともに満足していただいた。しかし、視点を変えた内容の見直しも必要であると感じた場面もあった。必要に応じて、次年度に改善したい。 不適切保育やチーム保育について、園内研修にて定期的な確認や話し合いを行った。	園児の主体性を重視した保育実践への意識が高まると同時に、主体性と自由の見極めに悩んだり結果として大人が主導する保育になってしまったりするなど、「これでよいのか」と苦悩することが増えた食事を楽しむ環境構成や関わりが保育者主体であったり、画一的であったりすることがある。 園児主体の行動を肯定的に受け止めたいが、けがや事故を恐れてどうしても任せきれず管理するかたちとなり、これまでのやり方(保育)から脱却しきらないところがある興味のあることは聞くがすぐに自分のことをしゃべり始めて、最後まで聞けない姿が目立つ。また、自分の言葉で話すことができない(上手く伝えられない)園児も多い。
令和7年度園目標	『保育教諭のスキルを磨いていこう!!』 ～園児が自主性・自発性・意欲をもち、じっくりと遊び込める環境を整え、豊かなこころや生きぬく力を育む～ 《実現するためのポイント》 ①自ら取り組もうとするきっかけをつくる。 ②言葉掛けの仕方、適切な距離をとる。 ③意見を尊重しつつ伝えるべきことは伝える線引きをすることを実践。 《内容》 わくわくの日:自ら遊びを見つけながら、じっくり遊び込む活動。 ぼかぼかタイム:遊びや生活を通して、思いやりのこころや人間関係が育めるような異年齢の園児交流。(月2回)	園児の主体性、保育者の主体性(共主体)の保育を考えよう。 「やってみよう!が溢れ出す今町保育園」 ①主体性ある保育展開を目指した職員個々のスキルアップ ・一貫性の関わりのある保育の実践 【あそんでみ隊】・・・日常保育におけるクラス・年齢の垣根を超えた交流 ② 風通しのよい職場環境づくり 【シャッフルデー】・・・一日を他のクラスで過ごす保育者の「やってみたい」 ③食の楽しさを感じる食育活動 ・一つの食材、一つの料理→想像を膨らます→気づき・感謝 ・家庭と連動した食育の推進	「原点にたち還る」 ～保育の本質・自分事～ 今一度、“原点にたち還り”、保育の本質や自分自身を見つめ直そう。 “感謝”と“利他”気持ちを大切に。 ・天竜保育園の取り組み(13の項目)を実践し、定期的に確認し合う。 ・時代の流れに迎合するのではなく、原点にたち還り、保育の本質や自分自身を見つめていくことで、大切にすべきこと、改めることなどを見極めて実践に移す。 ・チームワークの充実・・・お互い意見交換や助言し合える雰囲気作りに努める。 共通理解のもと、保育の方向性を確認し合う。 ・子育て支援の充実・・・園独自の取り組みを実践する。	園児が「自分で気づき考え、決める」ことができるような言葉掛けと関わりをする。 また、基本的生活習慣が身に付くための生活動線と環境について園児目線で見直し、整える。園児がやりたいことを実現でき、夢中になれる玩具や遊びを提供できるように努めたい。 引き続き、園児同士、園児と保育者、保育者同士の対話がある園を意識する。 食における園児の主体性について考え、研究する。 コロナ禍以降マンネリ化、消極的になっている地域との連携について、できることはないか見直す。